

従来のハードウェアスイッチャーは、機器ごとに映像フォーマットが固定されており、異なるフォーマットの入力にはフォーマット変換が必要な場合が多くあります。また、IP信号やストリーミングに非対応の場合、専用の変換機器を追加しなければなりません。その結果、追加コストや準備工数が増え、急なニーズへの対応も難しくなります。こうした制約により、使いたいソースを活用できず映像表現が制限されるという課題があります。

## 自由な入出力、フォーマット変換からの解放

KAIROS はソフトウェアベースのプラットフォームであり、入出力や内部処理にハードウェア特有の制約がありません。複数のフォーマットを混在して扱うことが可能なため、フォーマット変換用のコンバーターを必要とせず、さまざまな映像機材と柔軟に接続できます。

これにより、多様な映像ソースを活用した自由度の高い制作が可能になります。また、従来のシステムで必要だったフォーマット変換工程を削減することで、システム設計やセットアップを簡素化できます。さらに、変換機材を最小限に抑えることでシステム構成をシンプルにし、トラブル発生リスクの低減にもつながります。

	従来のハードウェアスイッチャー	KAIROS
異なる映像フォーマットの混在運用： 解像度、フレームレート、カラーモデル、ビット深度、色域、ダイナミックレンジ	△ 別途機材が必要	○
規定外の解像度への対応： 任意のアスペクト比、任意の解像度に対応	△ 別途機材が必要	○
多彩な信号フォーマットへの対応： IP (ST 2110、NDI® High Bandwidth、ストリーミング)、SDI、HDMI など	△ 別途機材が必要	○

## ✓ 異なる映像フォーマットのソースを混在使用可能※1

KAIROS は異なる映像フォーマットのソースやグラフィックを変換することなく入力できます。また、設定した解像度に応じて内部で自動的に最適化処理を行うため、規定のフォーマットに縛られず、任意の解像度・フレームレートで複数出力が可能です。さらに、異なる解像度やアスペクト比の映像ソースを組み合わせて映像合成し、シーン(ME)を作成することもできます。

これにより、異なる解像度のLEDディスプレイを組み合わせたイベントやスポーツイベント、多数の映像ソースを扱う放送やeスポーツ配信などにおいて、より自由な映像表現と効率的な運用が実現できます。

## ✓ 多様な信号フォーマットで入出力可能

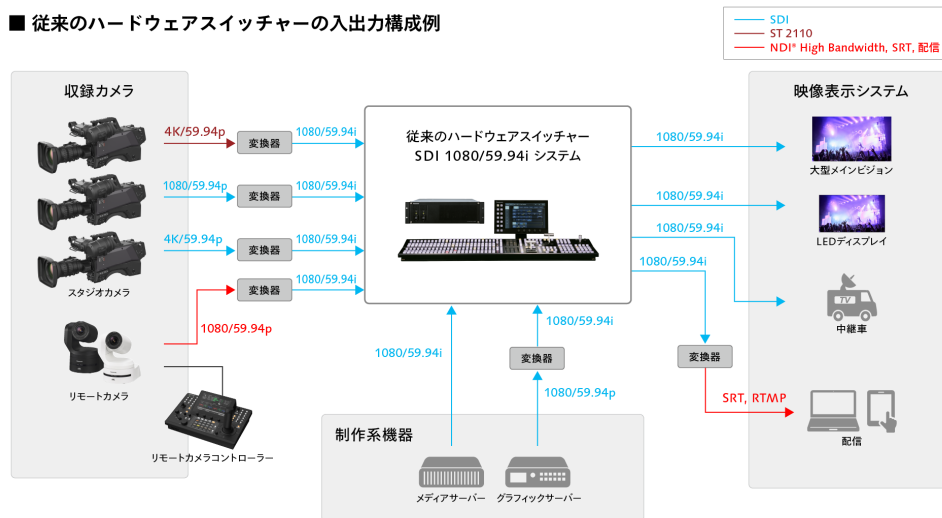
SDI、HDMIなどのベースバンド信号に加え、ST 2110、NDI® High Bandwidth、ストリーミングなどのIP信号を変換なしでそのまま入出力が可能です。さらに、信号フォーマットの異なる動画・静止画・音声ファイルを変換せずに内部保存し、ソースとして活用できます。

※1：対応映像フォーマットはKairos Core 商品ページの「対応ビデオフォーマット」をご確認ください。

※KAIROSの製品仕様は「[定格表](#)」をご確認ください。

※NDI®は映像伝送・制御技術であり、Vizrt NDI ABの米国およびその他の国における登録商標です。

## ■ 従来のハードウェアスイッチャーの入出力構成例



## ■ KAIROSの入出力構成例

